



伊達家
丸二三つ引き

郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから

「仙台に住んでいた南極探検家の白瀬中尉」

仙台市民図書館郷土担当 渡邊 啓市

「南極観測船しらせ」の名前の由来となった秋田出身の白瀬轟（しらせのぶ）中尉(1861-1946)が、かつて仙台に住んでいた件についてレファレンスを受けて「郷土のかぜ第26号」(令和4年3月25日発行)で、本紙の読者の皆さんに情報提供をお願いいたしました。

その内容は、白瀬中尉が陸軍第二師団に配属され仙台で過ごした若かりし頃、仙台の女性と結婚して21年もの間暮らしていたのですが、この時代の白瀬に関する資料が大変少ないため、当時の白瀬がどこに住んでいて、どのような暮らしをしていたのか、はっきりせず、当館の郷土資料コーナーに関連資料がないものか調べにきたというものでした。実際そのときのレファレンスでは、いろいろと丹念に調べてはみたものの、残念ながら新しい情報は何一つ見つかりませんでした。

ちなみに、この質問をくださった方は、白瀬中尉を研究している秋田県のある郷土史家の方で度々仙台にも来られるそうなのですが、その時は、どんなつまらない情報でも良いので何かあれば連絡してほしいということになりました。

それからだいぶ時間が経過してしまいましたが、つい最近、仙台時代の白瀬中尉が住んでいたと思われる場所が、当館所蔵の郷土資料の中から見つかりました。

それは、たまたま別のレファレンスで三原良吉氏監修の『仙台あのあるところ八十八年』という資料を調べていた際に、「陸軍中尉白瀬轟」という文字が目に入り、後でその箇所を読み返してみたところ、昔の「鹿子清水^{かのこしみず}」という場所、現在の「青葉区米ヶ袋」に白瀬の家があったと記されていました。そして、近隣には旧制二高の英語教師デニング邸、さらにはドイツ語教師のウルフエル邸があったということなので、早速、イーピー風の時編集部発行の『仙台地図さんぽ 100年前の仙台を歩く』をひろげて確認してみると、鹿ノ子清水通り付近に「デニング邸」「ウルフエル邸」が記されており、どうやら白瀬邸はその付近だったと思われるのです。この件を確かめてから、急いで秋田にいる郷土史家に電話で報告したところ、大変喜んでおられ、今度仙台に行ったときに訪ねてみたいとの返答がありました。

今回は、幸運にも別のレファレンスで使用した資料から、思いがけない新情報を発見することができました。前に受けたレファレンスで調べた苦労を思い返しながら、様々な郷土の歴史について、多大な功績を残した三原良吉氏の資料で見つけた感動はひとしおです。

<参考図書>

『仙台あのあるところ八十八年』 三原 良吉/著 S21セ



■ある日のレファレンスから

日本のフィギュアスケート発祥の地が仙台の「五色沼」であるということは、皆さん知っている方が多いと思いますが、その近くにもう一つスケートのできる場所があったことはご存じでしょうか。その場所の名前は「^{ざんぱんぬま}残飯沼」と言われるところです。ある日のレファレンスで「過去の河北新報の記事で名前が出ている残飯沼という沼の由来について調査をお願いしたい」という内容の質問がありました。

調べてみると、仙台の郷土史家、三原良吉氏が昭和32年7月31日付夕刊に掲載した「仙台八十八橋」の中に「二の丸台所門から行人坂上に出る通路に、中奥の外濠（明治時代に残飯沼と称した）の水が・・・」（『仙臺郷土史夜話』より抜粋）と残飯沼の記述があった他、『宮城県の昭和史・下』にも「飛躍の途にある仙台スポーツ界」という座談会の文章の中に「今でこそ滑れなくなったが扇坂を上ってからザンパン沼といふのがまだ滑れた時代でね。五色がいけないとザンパンへ上って行くし、・・・」との記述がありました。

さらに調べてみると、国立国会図書館のデジタルアーカイブで郷土資料とは関係のない1929年2月発行の「臨床研究1(1)」という医学雑誌の中に、「仙台第二師團兵營炊事場前で残飯の流れ来る濠をかく稱す」と由来についての記述がされているのでした。しかしこの残飯沼、現在のどの場所にあるか、地図ではっきりとはわかりません。知っている方がいればその場所を教えてくださいませんか。

■新着図書紹介（郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書）

『東北石神様百選 古代から息づく東北のこころを探る旅』

山田 政博／著 プランニング・オフィス社

S17ヤ

古代自然信仰のひとつに“磐座(いわくら)信仰”があります。“巨石信仰”や“石神様”とも呼ばれ、山や神社にある岩石をしめ縄や柵で囲って、神の宿る神聖な場所としました。本書は、自称石好きおじさんの著者が、“石神様”を求めて東北各地を巡り、厳選した100ヶ所の由来などを調査・記録したコラム集です。

ちなみに、宮城県石巻市北上町の釣石神社にある巨石(男石)は、宮城県沖地震と東日本大震災にもビクともしなかったことから、『落ちそうで落ちない受験の神』として全国的に有名になったそうです。



『仙台育英 日本一からの招待 幸福度の高いチームづくり』

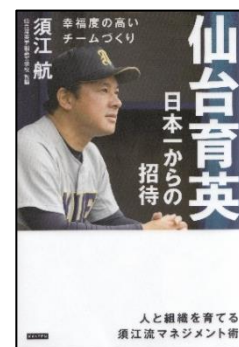
須江 航／著 株式会社カンゼン

S78ス

「青春って、すごく密なので」

この言葉が強く印象に残っている方も多いのではないのでしょうか？2022年夏、悲願の白河の関越えを果たした仙台育英学園高校野球部・須江航監督の名言です。本書は、その須江監督が球児たちを指導する際に実践している取り組みについて紹介しています。

「日本一からの招待」という書名は須江監督が野球部顧問に就任したときから掲げているスローガンに由来しており、「日本一は勝ち取るもの以上に、招かれるものである」と須江監督は語ります。仙台育英がどうして日本一に招かれることができたのか、その理由を知ることができる1冊です。



■編集後記■ 地元仙台出身・在住の佐藤厚志さんが『荒地の家族』で第168回芥川賞を受賞されました。東日本大震災の発生から12年、身の回りにも震災を知らない人が増えてきたように思います。そのようなときに、震災の被災地を舞台にしたこの小説が受賞したことにこの上ない喜びとともに、いつまでも震災の記憶を心に刻んでいきたいと感じました。当館には震災文庫の書籍がたくさんございますので、どうぞ手に取ってみてください。

発行：仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー

所在地：仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL:022-261-1585